

## 北海道サケネットワーク ニュースレター 41 新年号

平成 26 年 1 月 1 日

北海道サケネットワーク  
会員の皆様

北海道サケネットワーク  
代表・役員一同

### 謹 賀 新 年

明けましておめでとうございます。

昨年は、ここ何年か減少傾向を示していたサケの来遊数に、全体としては歯止めがかかりました。でも、北海道も本州も、太平洋側は平年とくらべると不調なので「めでたさも 中位なり おらが春」と言ったところでしょうか。

このような来遊数の減少傾向に危機感をもった水産学会北海道支部は、昨年暮れの支部大会の折に、北太平洋におけるサケ属魚類（主にシロザケ）の資源状況を俯瞰するとともに、サケ資源の変動状況をさまざまなスケールで多面的に把握し、資源変動の要因を探る、として、公開シンポジウム「サケの資源変動」を開催しました。

一方、公開シンポジウムの翌日に開催された第 7 回サケ学研究会では、道内のいくつかの河川における自然産卵魚あるいは野生魚についての報告があり、野生魚の重要性やサケのふ化放流の功罪について、白熱した議論がありました。野生魚とは、それぞれの河川における自然環境下で増殖している固有の系群ですが、このようなサケは、北海道サケネットワークが守り伝えようとしている豊かな多様性に富んだ河川でなければ見られません。

会報 7 号でも取り上げましたように、北海道は、昨年 3 月に、豊かな生物多様性を保全し、将来にわたってその持続可能な利用を図るためとして、『北海道生物の多様性の保全等に関する条例』を制定しています。とは言っても、河川に関するガバナンスは、まだまだチグハグで、ネットワークの会員の皆様のさらなる努力が必要です。このようなことを踏まえ、今年の総会において、今年のネットワークの活動では、サケをシンボルとした環境教育に焦点を当てて行きたいと提案いたしました。会員の皆様からの情報提供をお願いして、新年の御挨拶とさせていただきます。